

こころ



THCU Chronicle *Heart* No.15 Winter 2013

第15号



第62回関東大学女子バスケットボール2部リーグ戦において、本学女子バスケットボール部「Wizards」は10勝1敗で見事2部リーグ優勝を成し遂げました。



地震災害訓練にて(国立病院機構キャンパス)



医愛祭における手話ボランティアサークルの発表

女子バスケットボール部 関東大学女子バスケットボール 2部リーグにおいて初優勝！

CONTENTS 目次

- | | | | |
|---|--|----|--|
| 2 | 平成24年度東京医療保健大学を語る会 | 7 | 医療臨床実践看護学Ⅰ 実習の取り組み
国家試験対策・就職支援の取り組み
東が丘看護学部 看護学科 |
| 3 | 平成23年度決算について | 8 | 院生の声
大学院 医療保健学研究科 |
| 4 | 模擬患者参加型の授業の紹介
医療保健学部 看護学科 | 9 | クリティカル領域の特定看護師21名が巣立ち活躍
高度実践看護コース修了生の活動
大学院 看護学研究科 |
| 5 | 卒業研究発表会
医療保健学部 医療栄養学科 | 10 | 就職支援 |
| 6 | 医療情報総合演習Ⅳ、キャリア教育Ⅱ
医療情報技師対策
医療保健学部 医療情報学科 | 11 | Topics |

「東京医療保健大学を語る会」を開催

授業内容・方法の改善に関する取り組み

10月24日(水)、平成24年度「東京医療保健大学を語る会」が五反田キャンパスで開催されました。4名の教員から「授業内容・方法の改善に関する取り組み」をテーマに発表が行われ、その後意見交換が行われました。

授業内容・方法の改善に関する取り組み ～習熟度別クラスによる授業展開～

医療保健学部看護学科 しのき えり 篠木 絵理 教授



看護学科では、学科内FD活動において、情報交換会、公開授業等を通して、教育力の向上や授業改善に取り組んできました。平成21年度からは、省令改正に伴う新カリキュラム導入となり、「専門職の教育」において科目全体の再編成を行った。

小児看護学領域では、基本的知識を抑えるのみの授業内容では物足りない意欲的な学生がいる一方で、授業に集中できず授業資料が整理できない学生がいることをふまえ、各学生の力に見合った方法で主体的に学ぶ姿勢を育て、自ら学ぶ楽しさを実感してほしいと願い、習熟度別クラスの導入による教育内容・方法の改善に取り組んだ。

今回報告した「小児看護援助論Ⅱ」は健康障害のあることと家族の看護を学ぶことを主な内容とし、第1～10回は本科目で学ぶべき内容を網羅する通常クラス、第11回は達成度試験（中間試験）、第12～15回は習熟度別クラスとした。習熟度クラスは、資料整理と復習により基礎づくりをめざす「キャッチアップクラス」、知識活用を要する事例学習により基礎がためめざす「レギュラークラス」、認定看護師の指導のもと技術習得により学びの発展をめざす「アドバンスクラス」の3クラス編成により行った。

その結果、達成度試験（中間試験）は平均70.3点、最終試験は平均72.4点であったが、各クラスで得点を伸ばし75点以上の高得点者の割合が増えた。学生による授業評価では、「達成度試験がありよかった」「自分に合ったクラスで効果的であった」など、おおむね肯定的であった。学生には精選した学習内容を確実に習得することにつながり、教員には学生個々の学習ニーズに対応できるというメリットがあるため、さらなる工夫により継続を考えている。

授業内容・方法の改善に関する取り組み ～医療栄養学科の取り組み～

医療保健学部 医療栄養学科 いおる いりょう 五百蔵 良 教授



医療栄養学科では、栄養学を基礎から学びながら、医療の知識を実践的に身につけ、医療に強い管理栄養士の養成を行う中で、知識・技術のみならず、自分で問題を見つけ、考える自立的な能力・社会的な能力を磨くということを目指しています。

授業においては、教員は、双方向型の授業を組み込み、学生たちのインセンティブを高める工夫（到達目標確認のための小テストの実施・身近な話題・新しい情報などの紹介）・学生へ配布する資料の工夫・緊張感を与える工夫・学習意欲の向上・興味を持たせるため工夫を凝らしております。また、管理栄養士国家試験のガイドラインの改正に伴う関連科目相互の点検や連携を密にするための情報交換を実施し、授業方法の意見交換から、教育効果を上げるた

めの方策等を検討しています。さらに、管理栄養士国家試験合格には、早い段階からの学習の手助け・学生同士の助け合い・教員による声掛け等を行うとともに、今後も教員間で情報交換や討議を通して授業内容や方法の改善と向上を図ります。

授業内容・方法の改善に関する取り組み ～多様な医療情報人材の育成に向けて～

医療保健学部 医療情報学科 せと りょうま 瀬戸 僚馬 講師



医療情報学科の学生は、医療の専門性、そして情報技術の専門性という二つの軸のなかで、どこに比重を置いて学習したいのかを自ら意志決定することが求められます。そこで2009年のカリキュラム改訂では、学生の「自調自考」をより具体的に反映させた授業科目を追加しました。改訂から4年目を迎え、今まさに評価の時期を迎えています。

授業設計では、その科目が「知識の蓄積」を目的としているのか、あるいは「体験の蓄積」を重視しているのかというメリハリが重要です。2009年改訂で大きく変わったのは、各種試験対策のための「応用医療情報技術」などの科目群です。ここでは知識蓄積のため過去問題の復習やフィードバックが優先され、単位認定も厳格になります。体験蓄積の科目は、プレゼミを必修科目にした「医療情報総合演習Ⅲ」があります。ここでは単一解のない課題を考え抜くことが重要で、複数の教員のゼミに参加することで視野が狭くならないよう配慮しています。

授業改善には、やはり到達目標を意識することが重要です。目標の達成に向け、今後は試験や課題レポート等の見直しも積極的に進めていきたいと考えています。

大学らしい講義のあり方とは ～どのような方針で改善すべきか？～

医療保健学研究科 ひえいじま よしみつ 比江島 欣慎 教授



改善をしたつもりが改悪になってしまうということは、残念ながら社会において少なからず起こることである。そもそも、改善を考えると、どの方向を『善』とするのかを定義する必要がある。

大学での講義における内容や方法の改善を議論するとき、いったいどの方向を『善』とするのかは、大学のあり方の定義を出発点にして考えるのが良いであろう。学校教育法をひもとけば、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」とある。ここから『善』の方向として以下の3つが見えてくる。①学術的な知識を与えているか？②研究姿勢を伝授できているか？③知的、道徳的、応用的能力を伸ばしているか？ちなみに同法において高等専門学校は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と定義されている。

この発表を終えた後、新設大学3校の認可を巡る問題が世間を騒がせている。これから大学のあり方が大きく問われることになるであろう。大学が大学らしくあるために、講義の内容・方法を組織だてで改善すべきであるが、その実現はそれほど簡単ではない……。

平成23年度決算について（経理財務部）

学校法人青葉学園の平成23年度決算は、平成24年 5 月30日(水)の理事会・評議員会で審議・承認されました。決算概要を次のとおりお知らせいたします。

(単位：百万円)

	法人		東京医療保健大学					
	予算	決算	医療保健学部等		東が丘看護学部等		計	
			予算	決算	予算	決算	予算	決算
帰属収入	20.0	20.2	2,305.1	2,380.8	482.1	494.4	2,787.2	2,875.2
消費支出	61.5	60.3	2,210.5	2,183.4	502.9	471.2	2,713.4	2,654.6
帰属収支差額	▲ 41.5	▲ 40.1	94.6	197.4	▲ 20.8	23.2	73.8	220.6
減価償却①	0.0	0.0	178.2	208.2	3.8	7.8	182.0	216.0
退職金引当金繰入②	0.0	0.0	0.0	51.2	0.0	0.0	0.0	51.2
資産処分差額③	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
除く①②③収支差額	▲ 41.5	▲ 36.8	272.8	456.8	▲ 17.0	31.0	255.8	487.8

	青葉学園幼稚園		野沢こども園		合 計	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
帰属収入	204.9	210.2	211.1	219.3	3,223.2	3,324.9
消費支出	156.1	152.2	183.3	182.7	3,114.3	3,049.8
帰属収支差額	48.8	58.0	27.8	36.6	108.9	275.1
減価償却①	8.1	8.0	4.0	4.5	194.1	228.5
退職金引当金繰入②	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	51.2
資産処分差額③	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3
除く①②③収支差額	56.9	66.0	31.8	41.1	303.0	558.1

平成23年度決算総括

- 平成23年度は、東京医療保健大学においては、東が丘看護学部及び大学院看護学研究科の設置 2 年目の年度となりました。
- 予算対比でみますと、予算では帰属収支差額は109百万円でしたが、学納金、検定料、寄附金、補助金などの帰属収入が予算対比102百万円増加し、教育研究経費、管理経費など消費支出が予算対比65百万円減少したことにより、帰属収支差額は275百万円となり、予算対比166百万円増加いたしました。

東日本大震災関連

平成23年 3 月11日(金)に発生した東日本大震災から 2 年が過ぎようとしております。

これまで震災直後の平成23年 3 月中旬には、仙台市の避難所ケアにあたり、4 月からは土日を使い福島県の避難所をまわらせていただきました。その際に、福島県には原発問題のため他県自治体や団体の保健師等の支援がほとんど入っていないことを知り、保健師の派遣を進めてもらうため、個人の蓄積放射線量を図るガラスバッジを購入し、5 月のGWに福島県原発周辺市町村をまわり、保健師を対象に1年間の寄付を継続しました。しかし、1 週間支援のため滞在しても0.1mSvにも満たず測定不能であると証明しても残念ながら支援の増大にはつながらず、細々と支援を続けてきました。

このような中、原発問題と戦ってきた福島県沿岸地域の心と体に変化が出ています。「自分たちは一生赤ちゃん産んじゃいけないだよね、他県にはお嫁に行けないんだよね」と風評被害から間違った悩みを持ち続けたり、物が与えられすぎて、肥満児が増えてきたり、子どもにぬいぐるみがプレゼントされても誰も喜ばなかったり、

子どもを大切に思えない親が増えたり等…、震災直後には団結して守ってきた心と体が、今、1 年半をこして壊れ始めてきています。

福島県相双地区は、今もなお、保健師は人手不足で通常業務もできないほどで、震災後のメンタルケア等に力を込めることができない状況です。今後も、仲間を集め、福島県の子どものいのちや人生が輝いていくことができるように、現地保健師さんの活動の支援を継続できればと考えています。

(医療保健学部看護学科 准教授 渡會睦子)



模擬患者参加型の授業の紹介

～終末期ケアにおけるコミュニケーション技術の演習～

3年次前期に開講している臨床看護援助論Ⅲ(終末期看護援助論)では、「致死的な疾患を診断された人の診断から終末期にいたる経過を一連のものとして理解し、終末期における生命維持、苦痛の緩和、基本的ニーズの充足、自己実現など、QOL (quality of life) の維持向上に対する援助に必要な基礎的な知識・技術を習得すること」を学習目標としています。授業内容は、「人間が『自らの死』に対峙して生きる姿や、死にゆく過程における患者・家族の苦痛・苦悩の理解と緩和ケア・終末期ケアにおける看護の果たすべき役割、終末期における今日的課題について理解するための講義と演習です。この授業を受講する3年次生は、ほとんどが20歳で、終末期患者と接した経験もなく、近親者を看取った経験をもつ者も少ないために、『死』を身近な存在として考えたことは殆どありません。このため、視聴覚教材を使い事例に基づいた討議を通して、『人間にとっての死』に対する理解を深め、学生自身が授業に参加し、自ら考える姿勢を大切にしています。

終末期ケアにおけるコミュニケーションは、症状コントロールや家族ケアと並ぶ三大要素(柏木1992)といわれています。さらに、終末期患者とのコミュニケーションでは、患者の体調を気遣い、社会的な配慮をすることが必要です。心理的・霊的苦痛を軽減するために、言葉を吟味し、慎重に対応します。このためには、単にコミュニケーションの知識と技術があるだけでは難しく、患者に関心を持ち、心を寄せて耳を傾ける必要があり、様々な経験や繰り返しの練習が重要となります。しかし、学生は自分と異なる年代の人々との会話に苦手意識をもつ者も少なくありません。また、過去の実習経験でも、患者との会話の糸口さえ見出せず、沈黙の時間を経験し、「他者から拒否される」ことを心配し、「何を聞けばよいのか分からない」と困惑する気持ちを持っています。

近年、コミュニケーション技術を習得するための教育方法として、SP (simulated patient) 参加型教育が行われるようになりました。臨床看護学(慢性期)では、平成22年に引き続き、響き合いネットワーク東京SPの会にご協力頂き、「終末期にある対象とのコミュ

ニケーション演習」を行うことができました。SP参加型の授業では、学生同士で行うロールプレイと比較し、訓練を受けたSPとの対話とポジティブなフィードバックから、学生自身が自己のコミュニケーションに対する課題に気づき、学びを深めることができます。

今回のシナリオは、S状結腸がんで入院している終末期の男性患者です。患者の病状は、すでに肝臓にも転移があり腹水が貯まっている状態で、医療者と妻は「今しか自宅に戻れるチャンスはないと思っています。しかし、患者は「病気が治ってから退院したい」と言い、認識のズレが生じているケースです。学生は、はじめてのSP参加型の授業に緊張と戸惑う様子が見られました。事前に学生同士でロールプレイをして臨むグループもありましたが、実際の演習では、「自宅に戻っても訪問看護がありますので心配ありません」や「自宅で奥様の美味しい手料理を食べれば…」と説得したり、「もう少し体調が良くなってからと思っているのですね」と傾聴したりと今までの授業で習った知識を活用して『何とか自宅に帰って欲しい』という気持ちでアプローチしました。緊張で「頭が真っ白になって何を言ったか覚えていないやSPからの「最期ってことかなあ…」と言われて困ったり、思わず涙が出てしまう場面もありました。しかし、最後にはSPさんからのポジティブフィードバックに助けられながら「患者の気持ちに働きかけることは難しい」「自分のコミュニケーション技術を振り返る良い機会となった」と多くの気づきと学びが得られ、「もっとこんな授業をして欲しい」との声も聞かれた授業となりました。(医療保健学部看護学科 准教授 真野響子)



模擬患者さん参加による授業風景

平成24年度臨地実習協議会が開催されました

平成24年9月4日(火)に平成24年度臨地実習協議会(以下、協議会)が開催されました。この協議会は、本学が実習を行っているすべての臨地実習施設担当者にご出席いただき、本学の教育をより深くご理解いただくとともに、臨地実習施設担当者と本学教職員が一堂に会し、臨地実習に関する理解を共有し、充実した実習を行うための意見交換を目的として開催しています。協議会は、平成17年4月に本学が開学後、3年次生が実習を履修し始めた平成19年度から開催し、平成24年度で5回目となりました。開催場所は初回よりゆうほうとの一会場、実習施設関係者と本学教職員で100名ほどの規模の会となっています。

協議会では、田村副理事の開会挨拶の後、坂本看護学科長からの挨拶に続き、出席者全員の紹介が行われました。その後に平成23年度後期から平成24年前期の臨地実習の実施報告がありました。臨地実習の実施報告では、実習科目を開講する8領域がそれぞれの実習科目の実施状況について実習施設の代表者に依頼し、本学の実習生の学習の様子や実習指導に関して取り組まれていることなどをお話し頂きました。このようにすべての実習科目の実施状況について実習施設の担当者からご報告を開ける機会は本協議会でしかなく、自

身の領域以外の実習施設での学生の学習の状況や実習指導に関する取り組みや考え方について知ることで今後のそれぞれの実習科目のよりよい実習運営について再検討するきっかけともなっています。

平成22年度の第4回の協議会からは、会の後半から8つの領域別に分科会を開催しています。分科会では複数の実習施設の実習指導担当者と各領域の教員がそれぞれテーマを決めて実習指導についての意見交換などを行っています。分科会は異なる実習施設の実習指導担当者の交流の場ともなり、実習担当教員とともにこれまでの実習指導の要点について確認し合うことや、今後の実習指導についての新たな考えを生む機会にもなります。

今後もこの協議会の回を重ねるごとにより多くの実習施設の方に本学の理念や教育についてご理解を頂き、未来の看護職者の育成にご支援を頂けたらと思っています。また、本学教職員は実習施設の方のご意見を頂きながら実習指導に関する双方の理解を深め、協働することで、学生によりよい臨地実習での学習環境を提供していけるよう努めてまいりたいと思っています。

(医療保健学部看護学科 准教授 伊藤綾子)

医療栄養学科卒業研究発表会

医療栄養学科では、医愛祭にて卒業研究発表会を開催しています。平成24年度の医愛祭は、11月3日(土)及び4日(日)に開催され、ポスター形式で18題目の発表が行われました。両日あわせて約300名が来訪され、活発な討論が行われ、充実した発表会となりました。本学科の卒業研究は、選択科目で、意欲ある学生が、日頃熱心に研究に取り組んだ成果を発表しました。なかには、卒業研究が学会発表につながったものもあり、高度な研究内容となっています。

卒業研究発表題目一覧

- いおる いりょう **五百蔵良研究室**
『酵母の違いが米粉を用いたパンのおいしさに与える影響』
- うすい ゆきお **碓井之雄研究室**
『メラトニンが口腔内レンサ球菌の増殖、バイオフィルム形成及び形態にもたらす影響』
- おおだちしんこ **大館順子研究室**
『運動時のミネラル補給を目的としたドリンクの考案Ⅱ』
- おおぬまかすえ **大貫和恵研究室**
『フグ肝の加工品製造とその嗜好性』
- かんだひろこ **神田裕子研究室**
『母親の食生活が子どもに与える影響について』
『運動負荷が疲労回復や自覚、体調等に及ぼす影響について』
- こじょうあさこ **小城明子研究室**
『舌で押しつぶせる嚥下調整食の至適物性の検討』
- さいねん さちえ **西念幸江研究室**
『鶏肉の食味におよぼす脱水シートの影響』
- しみず まさとみ **清水雅富研究室**
『n-6系脂肪酸由来の脂質過酸化化物から誘導される遺伝子突然変異の解析』
- しもだたえこ **下田妙子研究室**
『ビフィズス菌の抗メタボ効果』
- すずき れいこ **鈴木礼子研究室**
『栄養疫学のエビデンスに基づいた予防栄養学を用いた食育活動～生活習慣と女性の乳がん罹患との関連～』
『こどもの食事と食環境に関する調査（春：中間報告）』
- ほそだ あけみ **細田明美研究室**
『女子大学生における口腔機能と食習慣との関係』
- みふね たかゆき **三舟隆之研究室**
『奈良時代における鮎の加工法の復元』
『日韓の古代における正月料理の比較』
- もりもと しゅうさう **森本修三研究室**
『低たんぱく食の栄養学的評価－献立分析から－』
『治療用特殊食品の利用が不可欠な慢性腎不全食は経済的負担が大きい食事か』
『急性期病院に適した簡単嚥下食の提案』

(指導教員五十音順)

学会発表された卒業研究の紹介

- **第66回日本栄養・食糧学会大会**
平成24年5月18日(金)～20日(日) 宮城県：東北大学
『LPS刺激によるマクロファージからの炎症性メディエーター産生におよぼすカルノシンの影響』
矢部義人
- **The 16th International Congress of Dietetics**
平成24年9月4日(火)～8日(土) オーストラリア：シドニー
『Effects of flavonoids on the inflammatory mediator productions in LPS-stimulated RAW264.7 mouse macrophage-like cells』
川名加織 (上記2研究：碓井研究室)
- **第59回日本栄養改善学会**
平成24年9月12日(水)～14日(金) 愛知県：名古屋国際会議場
『疫学エビデンスに基づいた予防栄養学への教育的アプローチ～女性のライフステージにより異なる体重と乳がんとの関連～』
相澤巧、池戸葵、小嶋はるか、兎澤奈美、川島希和子、中島友浩、北田美穂、長澤沙弥香、田島沙椰、東畑祐紀、大門麻美、田垣綾菜、石井美帆、佐藤千明、原田ひろみ、飯塚由紀、衣笠名南、川名詩織 (鈴木研究室 他)
『クエン酸摂取が乳酸値動態および自覚的体調に及ぼす影響について』 辻 茜 (神田研究室)
- **第8回日本給食経営管理学会学術総会**
平成24年11月24日(土)～25日(日) 愛知県：名古屋女子大学
『治療用特殊食品の利用が不可欠な慢性腎不全食は経済的負担が大きい食事か』
保坂由利奈、望月麻里絵、笹本瑛子、下岡愛弓 (森本研究室)
- **第35回日本分子生物学会年会**
平成24年12月11日(火)～14日(金) 福岡県：福岡国際会議場
『The lipid peroxidation product 4-oxo-2-nonenal induces mutations in *Saccharomyces cerevisiae*.』
三瓶謙斗、高橋文太、福永友紀、細井香菜
- **第85回日本生化学会大会**
平成24年12月14日(金)～16日(日) 福岡県：福岡国際会議場
『出芽酵母を用いた脂質過酸化化物から誘導される突然変異の解析』
三瓶謙斗、高橋文太、福永友紀、細井香菜 (上記2研究：清水研究室)

第16回国際栄養士会議平成24年9月6日臨床栄養 —医療栄養療法示説発表部門(非英圏選)で受賞

医療保健学部医療栄養学科下田妙子教授は優れた研究者へ贈呈される賞状を授与されました。研究テーマは「プロバイオティック効果を持つビフィズス菌bb536を高年齢腸腸栄養患者に投与した時の免疫および糞便の正常化に及ぼす影響」でした。受賞のよるこびをお伺いしたところ、「経腸栄養管理中の患者の免疫維持と糞便の正常化は、世界的課題として取り上げられていました。今回の

受賞は患者に侵襲を与えることなくプロバイオティック効果を検証した研究として評価されたものと理解しています。本研究は、大学院生が中心に行ったものですが、今回の受賞を励みに、今後も現場の栄養士と連携し、患者の栄養状態およびQOLに役立つ研究を続けていきたいと思っています。」と話してくださいました。益々の研究のご発展を期待しております。



医療情報総合演習Ⅳ

電子カルテと診療報酬の実践的学習

担当教員：瀬戸僚馬講師、西大明美助教

本年度から2年次生向けの少人数制クラスによる電子カルテと診療報酬の演習を取り入れています。

電子カルテ演習は、医師が行う診療録の記載や処方オーダーの発行などを体験します。また、「標準化」などシステム管理の基本を学び、「医療情報基礎知識検定」など関連する資格試験の学習にもつなげています。さらに、「薬品名の誤入力を防ぐためにはどうすれば良いか」など、医療情報学の立場から患者安全を考える場にもなっています。

診療報酬制度の理解は、財務的側面から医療のマネジメントを考える上で重要な知識です。早いうちに診療報酬明細書（レセプト）に親しんでおくことで、診療情報管理士の試験科目でもある「医療管理論」の対策にもなります。

医療情報技師対策

e-learningシステム

医療情報技師能力検定試験対策として、7月中旬からドリル形式のe-learningシステムを運用開始しました。このシステムには3分野300問以上の過去問を掲載しています。このシステムは、看護学科のNursingSkillsというシステムを使っています。看護実践についても学ぶことができます。

利用履歴をみると受験者の30%が利用しており、利用端末はパソコンに加えてスマートフォンからの利用もありました。病院や企業実習の移動中に利用した学生もいました。



取得できる資格	資格試験実施時期					
	2年次・春	2年次・秋	3年次・春	3年次・秋	4年次・春	4年次・秋
■受験資格が得られるもの 診療情報管理士				→	→	→
■目指す資格 医療情報技師			→	→	→	→
医療情報基礎知識検定	→	→	→	→	→	→
基本情報技術者	→	→	→	→	→	→
ITパスポート	→	→	→	→	→	→

キャリア教育Ⅱ

専門職として「働く」ことを考える

担当教員：津村宏教授、駒崎俊剛助教

授業前半3回は、医療情報の専門職として必要な知識の獲得を目的にした医療情報基礎知識検定対策を行いました。

授業後半4回は、卒業生と国際的な企業で仕事をされている方を講師として招きました。これは学生の将来像をつくりあげることの支援や学生自身が「働くこと」について考えることを目的としています。また、講師と学生がしっかりと議論できるよう土曜日に3時間の授業枠を2回設けました。

後半1回目は、国際的な情報系企業のトップを務めた方に「仕事をどのように考えるか」を豊富な経験に基づいて話してくださいました。病院で活躍している卒業生からは、病院でも国際的な業務基準の認証を受ける動きがあり、その中で病院内のコーディネーターとして働いている様子を聞きました。また、SEとして活躍している卒業生からは、学部で学ぶことが仕事をする上でもいきていることを伝えてくれました。

後半2回目は、本学科は女性の比率が高いので、国際的な医療系企業で人材育成を担当している女性とエンジニアとして活躍している女性の卒業生から話を聞きました。女性固有の悩みも踏まえた、人材育成の理論に基づいたキャリア形成論や「少し先」のモデルとして卒業生から「働くこと」「資格を取得すること」について話していただきました。講演後に6つのキーワードから「働くこと」を考えるグループワークを行いました（下図参照）。

授業後に提出されたレポートからは、ひとりひとりのキャリア観が変化した様子が伝わってきました。

6つのキーワード

- (1) 社会人とはなにか、どんな人か
- (2) 何が今までと違うのか
- (3) 働くとはなにか
- (4) どんなことが不安か
- (5) どんなことが楽しみか
- (6) どんな社会人になりたいか



グループワークにおいて大きなふせん紙に
学生達が意見を書き貼ったもの

医療臨床実践看護学Ⅰ実習の取り組み

—臨床実習を通して思考力と看護実践力をみがく—

医療臨床実践看護学Ⅰ実習は3年次の5月からスタートし12月まで続きます。この実習は「クリティカルケア実習」「リハビリテーション看護実習」「セルフコントロール支援実習」「終末期看護実習」の4つから構成され、それぞれが2単位、合計8単位です。「医療臨床実践看護学」という科目名があらわす通り、思考をしつつ看護の実践力を身につけることが実習の大きな目的です。対象は成人期、すなわち、社会でも家庭でも最も重要な役割を果たしている働き盛りの人々です。学生はこの成人期の患者さんの健康問題を看護者として分析し、看護援助を実践します。実習の内容は多岐にわたっていますが、ここでは、実習で学生が取り組んでいる受け持ち患者さんに対する看護の展開について紹介します。

学生はまず患者さんの全体像を把握し、看護過程を基礎にして看護を展開します。成人期の患者さんが、入院して治療を受けているわけですから当然看護の専門性を問われる援助が必要とされます。患者さんの状態は刻々変化するので、学生には色々なことがばらばらに起こるように見えて戸惑います。しかし、看護を展開するプロセスは、患者さんをしっかりと見つめることから始まります。その上で、看護の視点で情報を系統的に整理し、丁寧に読み込んでいくと、何が大切か、何をするのかということが明らかになってきます。同時にいろいろな疑問や学習課題も明らかになります。例えば、この治療は患者さんにとってどんな意味を持つのか。処方されている薬の作用はどのように現れているのか。検査データは何を現しているのか。なぜ患者さんはベッド上で安静にしていなければならないのか。患者さんの身体の状態をどのように判断するのか。さらに、病気、入院生活、治療を受けるという、今までの生き方とは全く異なった環境におかれた患者さんはどのよ

うなストレスにさらされているのか等々。これらの問いを解く鍵は、これまでの学習の積み重ねにあるのです。患者さんに起こっていることや起こりつつあることを知り、看護に何を求められているのかを知るために、今まで何気なく手にしていた教科書や専門雑誌を宝物のように読むことになります。専門的な知識や技術を備えた看護者としての役割や責任の重さを実感し、患者さんにしっかりと寄り添うということはどういうことなのかを自らに問いながら、一人一人が真剣に実習を進めています。実習を担当している成人看護学領域の教員も、自分たちのすべてが学生に大きく影響するのを実感しつつ、学生と一緒に考え、取り組み、一喜一憂しながら学生とのかかわりを深めています。実習施設である東京医療センター、東京病院、村山医療センター及び関係者の皆様の多大なご協力の下で行われている成人看護学実習を通して、3年次生全員がキラリと光る大切な何かをつかんでほしいと願っています。

東が丘看護学部看護学科 教授 あさのたえこ 浅野妙子

クリティカルケア実習カンファレンス

国家試験対策・就職支援の取り組み

看護職の将来の道は多種多様ですが、まず看護師国家試験（以下国試）に合格しなければなりません。日本においては保健師、助産師資格は、看護師の国試に合格しなければ取得できない制度になっています。看護師の国試に合格しなければ看護職としてのすべての道は無と化すことになります。

本学では平成23年12月に国試対策ワーキンググループを、平成24年5月には就職支援ワーキンググループを学生生活支援委員会の下に設置し支援を行っております。

国試の目的は、看護師という命とかかわる特定の職業に免許を与えてよいかどうかを決めることにあります。免許を付与することは、その職業に必要な基本能力及びそれを安全に提供する能力を持っていることを患者さんに保障することです。学生達にはこの国試の目的を説明し、毎日の学習が極めて重要であることを伝え指導を強化しています。

就職支援は国試合格があって初めて成り立ちますので国試対策と就職対策の両面からの支援を行っています。

国試対策の取り組みは、コンタクトグループの教員が1対1の個別指導に当たり、3年次に3回行う国試模試結果を通して学生の自己の弱ところを自覚させ学習の動機付けができるように指導しています。また外部講師による国試対策講演会も予定しています。

就職支援については平成24年7月4日(水)に第1回学内就職説明会（就職・進学的心構え、就職活動の流れ、病院見学・インターンシッ

プについて・就職情報コーナー等）を開催し、7月26日(木)には国立病院機構関係病院就職説明会の実施、また、9月には平成24年度の東京医療センター奨学生の募集（1年次生、2年次生、3年次生）説明会を実施しました。これらにつきましてはすでに保証人の皆様には文書でお送りさせていただきました。10月に入り学生に進路登録カードを配布し就職・進路希望を記入・提出してもらい、一人ひとりの学生の希望に沿う指導体制を整えました。

10月には4年次からはじまる卒業論文指導研究室が決定しましたので、学生が所属する研究室が責任を持って個別に国試対策、就職支援の指導に当たる指導体制にいたしました。全員の国試合格、就職・進学を目指し、学生・教職員一丸となって指導に当たっています。ご家族の皆様にも、ご理解とご協力をお願いいたします。

東が丘看護学部看護学科 教授 みやまきこ 宮崎文子

国立病院機構関係病院就職説明会（平成24年7月26日(木)実施）

院生の声



私は看護師として6年間、まじめ(?)一筋に働きました。そこには辛かったこと、苦しかったこと、楽しかったことなど、数々の思い出がありますが、振り返れば鮮やかに思い出せるほど、私の人生において、素晴らしい経験をした看護師時代です。

その後、医療現場と企業の架け橋となることを目標に、医療企業に転職しました。医療現場とはまた異なった見地から展望することが可能となり、仕事を通じて医療の変化や発展を見つめています。また、これらの経験を生かして、更に自らを研鑽するため、現在、働きながら大学院博士課程に席を置き、「感染制御の質を保証する」をテーマに研究をしています。

手術室勤務の時代には、人の体内に使用する手術器械に、微生物が付着しているなどと疑うこともありませんでした。しかし、微生物のいない状態が実際に目に見える筈もなく、本当にそうなの?と聞かれても保証できるすべはありませんでした。しかし、角度を変えて見つめた時、ここにもいろいろな問題が含まれている現状を理解しました。医療現場で問題になっていること、解決を急がなければならないことは、

社会人として働いてきた経験からこそ感じたり、見つけたりすることが出来ました。医療の現場は、今までのように「昔からこうやっていたからこうする」という慣習ではなく、こういう科学的根拠、つまりエビデンスに基づいて治療の質を高めていかなければならないことが分かってきました。世の中には、世界的大発見に繋がるような研究もありますが、私の役目は、医療現場の日常的作業を検証し、結果と正しい方向を見つけ出すことと考えています。

ところで、働きながら大学院に通い、友達もいないのでは?と思っていらっしゃるいませんか。大学院では、四季折々のイベント、海外の学会に研修として行くこともあります。ハードではありますが、大学院でご指導くださる先生方、私の研究に寄り添ってくれた先輩、同輩、後輩から励まされ、共に疑問を持ち、問題に悩み、そして、それを乗り越えた時は最高に嬉しく、仲間への感謝の気持を強く感じます。

また、絆の深い生涯の仲間と出会えた場となっていることも、私の人生にとってこの上もない貴重な学びの場となっています。一人でも多くの方がこのような人生経験をなされることを切望しております。

医療保健学研究科医療保健学専攻 博士課程第3回生
神 貴子



これから始まる大学院での学生生活を思い描き、期待感を胸に大学院に入学して半年。当初は不安や緊張もありましたが、仕事と学校との生活にも慣れ、心もち少しゆとりを持てるようになってきました。私が大学院への進学を決めた理由として大

きく3つが挙げられます。1つ目はまず助産師としての自分自身の在り方をもう一度考えてみたいと思ったことが挙げられます。そして2つ目は後輩スタッフや学生への指導的立場となり、臨床の場において「教育」というものはどうあるべきなのかを学んでみたいと思ったこと、3つ目として私自身が今まで行ってきた助産ケアは、科学的根拠に基づいた上で実践されてきたことなのかを再度考えてみたいという思いからです。そして何よりも大学院へ入学した大きな目的の一つに「研究」があります。自分自身の興味のあることに没頭し、2年間かけてじっくりと基礎から学び、研究に取り組んでみたいと思ったからです。

現在、私は大学院でお母様方の「産後のストレス」について焦点をあてた研究を進めています。産後の育児はお母さま

方自身が思い描いた様なものにはならないことが多々あります。そんな時、専門職者である助産師がどのようにお母様方に関わってゆくべきであるのかは、とても重要なことだと思います。しかし研究を進めていく上で「役に立つ何かをしたい」というその熱意だけでは研究は成り立たず、緻密な研究計画や方法があり、論理的思考のもとで展開されていくものだということを痛感し、学問の世界が甘くないことを感じながら悪戦苦闘の日々を過ごしています。

周囲からは「学校と仕事の両立は大変ね」とよく心配をされたり、友人たちからは「女子大生楽しんでる?」と励ましのメールをもらいます。私にとっては同じ助産学コースの同級生たちとの出会いや先生方との出会いがとてもよい刺激になっています。多様化する助産師の役割の中で、専門職者として幅広い知識と広い視野を持ち、お母様方を思う気持ちを大切に、自律した助産師としてさらに日々の助産業務に磨きをかけていけたらと考えています。大学を卒業して何年もたちますが、学ぶことに年齢は関係なく、いつまでも多くのことに好奇心をもち続けていたいと思います。

医療保健学研究科医療保健学専攻 修士課程1年生
古川 奈緒子

クリティカル領域の特定看護師21名が巣立ち、活躍

救急外来で待つ十数人の患者を横目に「長い間、待っているのはつらいだろうな。」あるいは、集中治療室で気管挿管された患者が意識清明となり咳き込みながら、「看護師さんこの管はずして」と目で訴える様子等に遭遇し、看護師は「何とかしてあげたい。」という思いに駆られる経験を何度もしています。このような時に看護師が侵襲性の低い特定の医行為を行うことができたならば、適時に患者の苦痛を緩和でき、あるいは症状の早期改善、早期回復が可能となり、患者の満足に繋がるとの思いを持っている看護師は少なくありません。このように考えるのは看護師だけではありません。国立病院機構の500床以上の17施設の医師および看護職975を対象にした調査（平成20年実施）において、「看護師は医師と協働していくために現在の法に定められている業務の裁量権をもっと拡大した方がよいと思うか」という設問に対して、医師の91%が「拡大した方がよい」と回答しており、医師も看護師の役割拡大を望んでいました。東京医療保健大学では、救急患者、周術期患者、重症患者に対して、医師と連携・協働して、安心・安全な医療をもタイムリーに効果的に提供できるクリティカル領域の特定看護師の養成教育を平成22年度から開始し、本年3月には21名が社会に巣立っています。

21名の特定看護師は、総合病院あるいは急性期病院の救急外来や初療室、集中治療室、周術期患者が入院している病棟・外来などで活動しております。

救急外来では一次・二次救急患者に対して、問診と診察を行い、プロトコルに基づき症状の原因を明らかにするために必要な検査のオーダー、実施、一次評価を行い、その上で医師の診療につなげ

る、もしくは初期対応を行っています。患者さんにタイムリーな診療が提供でき、患者さんの症状の早期改善や不安の軽減となり、患者さんの満足度が高いという実践が出ております。

集中治療室では人工呼吸器装着患者の呼吸状態や検査データなどを評価し、酸素投与量の調整、抜管の時期の判断、抜管の実施に至るまでの一連の行為を行うことによって、患者や患者家族のQOLの向上、満足につながっていくと考えています。

効率的なチーム医療を推進し、患者にタイムリーによりよい医療を提供する特定看護師は現代医療に欠かせない看護師です。

看護学研究科看護学専攻 准教授 いしかわのりこ 石川倫子



大学院修了後の第1回情報交換会（平成24年7月27日（金）実施）

高度実践看護コース修了生の活動

—特定看護師としての活躍—

平成24年3月に本学大学院看護学研究科を修了し、看護師特定行為・業務試行事業の指定を受けた名古屋医療センターにおいて特定看護師として、1年間の研修期間に入っています。上半期は、循環器内科・総合内科と内科系の研修を受け、下半期は外科・救命救急・産婦人科の外科系の研修を行う予定です。

循環器内科では、常時、5～6名の入院患者を受け持たせていただきました。日々の診察、治療効果判定のための臨床検査や単純X線撮影の必要性の判断をし、その結果の一次的な評価を行い、必要な薬剤を選択するという一連の行為を担当医師の指導・確認の下で、実施してきました。

受け持ち患者さんの心臓カテーテル検査は直接介助をさせていただき、入院時から検査まで深く関わることができました。これらのことが患者さんにとっても日々の病状説明や社会的背景を含めた退院後の生活指導にとても役立っています。また特にリハビリや栄養に関して、他の医療スタッフの方々とも適宜情報交換を行い、担当看護師を中心に病棟スタッフの方々とも協力してケア計画を進めることができたことが印象的でした。

総合内科では、指導医・6日目医師・初期臨床研修医のチームに参加させていただいています。指導医の先生方からベッドサイドでの指導を受けながら、患者さんの身体所見からの診断に関する知識や技術を日々深められています。朝夕に行われるカンファレンスでは受け持ち患者さんの報告を緊張しながら行っています。

患者さんやご家族様の皆様からは、タイムリーな病状説明が「心

強い」、「分かりやすい」と言われたことがあります。抵抗なくベッドサイドに行けることが、自分の強みなので、患者さんの社会的背景も考慮しながら、今後の状況に応じた説明や指導を行っていきたいと思っています。また同僚の看護師からは、「看護師のエラーの傾向を意識した指示を出してもらえる」、「治療方針などが聞きやすい」と言われたことがあります。まだまだ不十分なことも多く、ご迷惑おかけすることもあります。今後も感情に気を配り、生活背景を含めトータルで患者さんを診る姿勢を心がけていきたいと思っています。

名古屋医療センター 特定看護師 かとうみなこ 加藤美奈子



救急外来における初期対応研修



医療保健学部における就職内定状況一覧 (25.1.31現在)

【看護学科】

就職先		就職者数				内定者数	平成25年4月就職企業・病院名（内定状況）
		H21.4	H22.4	H23.4	H24.4		
病院 (特定機能病院・一般病院)	国立系病院	1	1	4	4	2	国立病院機構東京医療センター (2)
	公立病院	6	8	11	7	7	都立小児総合医療センター (2)、横浜市立脳血管医療センター、都立墨東病院、都立駒込病院、公立昭和病院、日本海総合病院
	国公立大学病院	11	13	10	12	10	横浜市立大学附属病院 (4)、東京大学医学部附属病院 (2)、東京大学医学研究所附属病院、千葉大学医学部附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、東京医科歯科大学医学部附属病院
	私立大学病院	30	32	26	38	12	杏林大学医学部付属病院 (2)、東邦大学医療センター大森病院 (3)、東京慈恵会医科大学附属病院 (4)、東京医科大学病院、東京女子医科大学八千代医療センター、昭和大学病院
	公的病院	5	11	11	8	20	日本赤十字社医療センター、関東労災病院 (2)、東京都健康長寿医療センター、国家公務員共済組合連合会東京共済病院 (2)、日本赤十字社大森赤十字病院 (11)、国家公務員共済組合連合会横須賀共済病院 (2)、横浜市立みなと赤十字病院
	私立病院	27	27	37	31	47	N T T 東日本関東病院 (36)、東京都教職員互助会三楽病院、東京都保健医療公社豊島病院、湘南鎌倉総合病院、新東京病院、増玉協同病院、筑波メディカルセンター病院、井之頭病院、東京臨海病院、聖路加国際病院、東京通信病院、千葉西総合病院
保健師	市区町村	4	4	3	0	0	
	企業等	0	0	0	1	0	
民間企業		1	0	0	1	0	
その他		0	1	0	0	0	
計		85	97	102	102	98	
就職率 (%)		100	100	100	100	100	内定率

【医療栄養学科】

就職先		就職者数				延べ内定者数	平成25年4月就職企業・病院名（内定状況）
		H21.4	H22.4	H23.4	H24.4		
病 院	管理栄養士事務職	12	11	10	12	9	いずみホームケアクリニック、成仁病院、慈恵会医科大学附属病院、駒ヶ根高原レディースクリニック、栗源病院、聖隷佐倉市民病院、川崎田園都市病院、上尾中央総合病院、春日部中央総合病院
社会福祉施設	管理栄養士	2	0	7	8	21	社会福祉法人正吉福祉会 (2)、ユニマツトそよ風 (2)、社会福祉法人天寿園会 (6)、社会福祉法人カメリア会 (2)、医療法人社団湖聖会 (2)、社会福祉法人草加福祉会クラシックレジデンス東戸塚、社会福祉法人多摩大和園やまと苑、社会福祉法人端午会、社会福祉法人静清会羽衣の園、社会福祉法人恵和会有度の里、社会福祉法人善光会、社会福祉法人馬橋福祉会
医薬品等販売	管理栄養士	11	27	28	10	24	くすりの福太郎、クリエイトエス・ディー (6)、ツルハ、CFSコーポレーション、セイジョー (8)、ばばず、スギ薬局 (2)、スマイルドラッグ、カワチ薬品、望星薬局 (2)
給食委託	管理栄養士	16	18	20	16	34	エムサービス (2)、西洋フード・コンパスグループ、富士産業 (7)、日京クリエイト、メフォス (5)、日本給食サービス、シダックス、日清医療食品北関東支店 (3)、シルバーライフ、ハーベスト (2)、L E O C (5)、石本商事、ベストフードサービス、ジャパンウェルネス、栄養食、グリーン・フードマネジメントシステムズ
流通・食品卸	管理栄養士	2	7	2	2	3	北つくば農業協同組合、スーパーアルプス、ライフコーポレーション
中・外食産業	営業・販売	3	5	4	2	7	吉番屋、日本レストランシステム、東京一番フーズ、アップハート、米八東日本、里コーポレーション、カネ美食品
食品メーカー・販売	技術職・営業	13	7	8	8	13	敷島製パン、サンテリカ、アッシュ・セー・クレアシオン、船忠、ケイバック、キュービー、シャノール、フジフーズ、わらべや日洋、武蔵野フーズ、武蔵野、パンデロール、平和食品工業
医薬品メーカー・卸	医療情報担当者 営業・販売	6	5	1	2	4	味の素製薬、千寿製薬、東邦ホールディングス、森川産業
金 融	一般事務	1	1	2	0	1	道南農業共済組合
医療機器メーカー	営業	0	1	0	1	0	
保育園・学校	管理栄養士等	6	3	7	6	20	野沢こども園 (2)、社会福祉法人恵仲会、日本保育サービス (4)、野菊野保育園、夢工房、ネス・コーポレーション (3)、グローバルキッズ、小学館集英社プロダクション、ポピンズ、社会福祉法人久遠園洋光台中央福祉保育センター、こどもの森、白幡フレール保育園、リトルキッズ、雲母保育園
公務員		2	5	5	3	3	東京都Ⅱ類 (2)、横浜市中級
その他		17	8	4	10	14	美高商事 (2)、ボディワーク、ノジマ、日本郵便、コンサルティング・エムアンドエス、サンリ、バズル、三基商事、シー・エム・アルファ、ファクトリージャパングループ、シェイプアップハウス、オリエンタルランド、Freewill学習塾
計		91	98	98	80	153	
就職率 (%)		95.8	96.1	98.0	94.1	93.1	内定率

【医療情報学科】

就職先		就職者数				延べ内定者数	平成25年4月就職企業・病院名（内定状況）
		H21.4	H22.4	H23.4	H24.4		
病 院	診療情報管理士事務職	6	8	23	13	8	NTT東日本関東病院 (3)、IMSグループ、みやた皮膚科クリニック、千葉中央メディカルセンター、横浜栄共済病院、横浜総合病院
医療系システム開発	システムエンジニア	21	23	25	12	14	日本事務器、インフォコム (3)、オリンパスソフトウェアテクノロジー、東京コンピュータサービス、富士通マーケティング、ランドコンピュータ、トーテックアメニティ、ラジエンスウエア、インフォテック、フライアルメディカルシステム、ACMOSソーシングサービス、日立メディカルコンピュータ
一般ITシステム開発	システムエンジニア	14	7	6	4	8	情報システム工学、フォーバル、アクセルマーク、アイスタイル、日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア、システムフロア、ビーエスシー、日本コムシンク
医薬品（開発・臨床試験）	医療情報担当者 治験コーディネーター	7	6	1	2	1	東京サラヤ
生命保険・損害保険	システムエンジニア	4	2	1	0	0	
福祉施設	介護	3	3	2	1	0	
医療機器・機材	営業職	7	2	2	2	2	竹虎ホールディングス、サクラ精機
その他	営業職・事務職等	10	8	4	7	11	青山商事、ビューティーパートナーズ、サンドラッグ、東京医療保健大学、ウエルシア関東、テコセンター、ニュートーキョー、コスモフーズ、警視庁、ロイヤルアパートメント、ウツィ商事
計		72	59	64	41	44	
就職率 (%)		98.6	90.8	92.8	95.3	94.4	内定率

授業評価実施結果の公表

本学では、開学当初の平成18年度から授業内容・方法の改善充実に資するため、全授業科目について学生による授業評価を実施しております。平成23年度の医療保健学部・助産学専攻科・東が丘看護学部・医療保健学研究科・看護学研究科の授業評価結果については、10月3日（水）に学内に掲示するとともにホームページ（<http://www.thcu.ac.jp>）に公表いたしました。

校歌パネルを設置

本学では「建学の精神及び教育目標」について学生、教職員及び来学者への周知を図るため、「東京医療保健大学の建学の精神及び教育目標」を明記したパネルを各キャンパス校舎本館の玄関ホールに掲示しておりますが、このたび新たに「東京医療保健大学校歌」のパネルを掲示しました。「東京医療保健大学校歌」は開学当初、田村哲夫理事長（雅号は田村哲山）が作詞され、音楽家の津島利章氏に作曲をお願いして出来上がりました。校歌には、「建学の精神及び教育目標」を踏まえて、医療系の大学に学ぶ学生にとって重要なキーワードとなる「生命（いのち）」「真理（まこと）」「思いやり」「絆」「愛」という言葉が歌詞に盛り込まれておりますが、学生達が常日頃校歌の歌詞を目にし、校歌に親しみながら、優れたチーム医療人となることを目指して勉学や課外活動に励むことを願っております。

国立病院機構キャンパスに噴水を設置

11月8日（木）、国立病院機構キャンパスに噴水を設置しました。

噴水は高さ2,700mm×幅2,500mmで透明のガラス伝いに水が流れるようになっており、ガラスにはTHCUの文字が入っています。下からは水面50cmの高さまで噴き上がるキャンドル噴水とLED照明が設置されており、LED照明は自動で7色に変化するようになっています。



女子バスケットボール部「Wizards」 2部リーグ優勝!!

関東地区の103大学が加盟する関東大学女子バスケットボールリーグ戦において、本学女子バスケットボール部は2部16大学のリーグ戦を勝ち抜き、見事に初優勝を成し遂げました。

開学当初は5名のメンバーでスタートした女子バスケットボール部が創部8年目には歴史と伝統のある関東大学女子バスケットボールリーグの強豪チームと肩を並べてトップリーグで活躍していることは、恩塚監督の指導のもと日頃の厳しい練習と努力のたまものと言えます。部員の先輩達は、看護師や管理栄養士の国家試験等に合格し医療機関や企業等に就職しておりますが、文武両道を目指して活躍する部員達の姿は全学生にとっても励みとなっております。なお、10月27日（土）に行われた1部8位の順天堂大学との入れ替え戦においては、惜しくも勝利を逃がしましたが、女子バスケットボール部は着実に力をつけておりますので、今後一層の活躍が期待されます。

NTT東日本関東病院の 災害時トリアージ訓練に参加

10月11日（木）、医療保健学部看護学科の4年次生を中心に90名を超える学生が、模擬患者役でNTT東日本関東病院のトリアージ訓練に参加しました。学生は、事前に決められた患者設定を学習し、各自役作りをして参加しました。訓練終了後、参加した学生からは、「（医療者が）そばにいてくれるだけでも支えられている気がした」「（訓練よりも）もっと混乱した状況になることが、想像できない」などの感想が聞かれました。

東京医療センターの地震災害訓練に参加

10月11日（木）、東京医療センターで実施された地震災害訓練に、東が丘看護学部看護学科の2年次生134名全員が模擬患者等の役割で参加しました。この訓練は毎年実施されているもので、地震による骨折や負傷で救急隊の処置を受ける患者役等に扮してトリアージを受けたり、患者搬送係をしたりと、学生にとっても災害時の対応を学ぶ貴重な経験になりました。なお、今年度は目黒消防団に入団している28名の学生は、消防団員の訓練活動として参加しました。

医療栄養学科学生の食育メニューが紹介

医療栄養学科3年次生が作成したメニューが、他大学生のメニューとともに、世田谷区食の環境づくり推進部会を通して10月23日（火）の読売新聞に掲載されました。メニューは「季節野菜のクリームシチュー」で、世田谷区役所地下食堂などの特定給食施設の献立にも使用されました。また、区の広報チラシに作り方が掲載され、世田谷区民に紹介されました。

医療情報学科学生による学会発表

医療情報学科4年次生が、11月2日（金）～11月4日（日）に名古屋大学で開催された生活生命支援医療福祉工学系学会連合大会（LIFE2012）で、「慢性疾患高齢者の健康支援のための身体機能評価アプリケーションの開発」をテーマとして学会発表を行いました。

第1回日本NP協議会研究会開催

11月10日（土）、国立病院機構キャンパスにて第1回日本NP協議会（正会員数192）の研究会（テーマ：「これからの特定看護師～実践現場で活躍する特定看護師たち～」）が開催されました。本学副学長でもある草間朋子協議会会長の話に始まり、本学大学院の高度実践看護コース修了生も実践報告を行いました。

シンポジウムでは本学修了生の受け入れ施設の管理者も含めた活発な議論が得られ、修了生の発表もあり、今後、ますますの活躍が期待される充実した会となりました。

学部・研究科一覧

大学

平成25年4月1日現在

学部	学科	入学定員	収容定員	キャンパス
医療保健学部	看護学科	100	400	五反田
	医療栄養学科	100	400	世田谷
	医療情報学科	80	320	
東が丘看護学部	看護学科	100	400	国立病院機構
計		380	1520	—

大学院【修士課程】

研究科	専攻、領域	入学定員	収容定員	キャンパス
医療保健学研究科	医療保健学専攻 看護マネジメント学 感染制御学 医療栄養学 医療保健情報学 助産学 周手術医療安全学	25	50	五反田
看護学研究科	看護学専攻 高度実践看護コース 高度実践助産コース	30	60	国立病院機構
計		55	110	—

大学院【博士課程】

研究科	専攻、領域	入学定員	収容定員	キャンパス
医療保健学研究科	医療保健学専攻 感染制御学 周手術医療安全学	4	12	五反田

注) 青字は平成25年4月1日設置

医愛祭の実施

本学学園祭「医愛祭」を11月3日(土)及び4日(日)に実施しました。両日とも好天に恵まれたものの北風が強く吹く時間帯もあり、お客様の出足が心配されましたが、初日615名、2日目432名、合計1,047名にお出でいただき昨年の来場者数の974名を上回りました。



編集 集 後記 Editor's note

本学は、平成17年度に1学部3学科を有する医療系の大学として開学しており、平成25年4月には9年目を迎えますが、この間、教育研究組織の充実を図り、現在、2学部4学科、2研究科(博士課程、修士課程)、1専攻科、2センターを有する大学に発展してまいりました。

平成25年4月には大学院医療保健学研究科医療保健学専攻の博士課程及び修士課程にそれぞれ周手術医療安全学領域を設置いたしますが、社会からの要請に応じて医療分野において特色のある教育研究の一層の充実発展を図ることといたしております。

さて、学報こころは、年2回発行することとしており、各学部・学科・研究科等の実践的な教育研究活動をご紹介するとともに、学生の課外活動における活躍の様子、学内の動き等についてお知らせする

ことといたしておりますが、今号においては、新たに医療保健学研究科博士課程及び修士課程に在学する社会人院生の声を掲載するとともに、平成24年3月に看護学研究科修士課程高度実践看護コースの初めての修了生として社会に送り出した特定看護師の医療現場における活躍の様子をご紹介します。

本学においては、3月9日(土)に学位記授与式を举行しますが、各学部・学科・研究科・専攻科の教育理念・目的に基づき育成された有為な人材が優れたチーム医療人として社会において活躍されることを願っております。

皆様から学報こころに関する忌憚のないご意見・ご感想等をいただければ幸いです。